

人形劇プロジェクト稲むらの火の活動と拡がり

日本 V

「稲むらの火」は、安政元年の大地震の際、津波に気づいた庄屋が、自分の貴重な稲を燃やして危険を知らせて村人を津波から救ったという実話をもとにつくられた民話です。阪神・淡路大震災を体験した損保ジャパンの社員は、この民話を人形劇にして上演しようと、静岡県の人形劇団に働きかけ、2003年6月に「人形劇プロジェクト稲むらの火」を立ち上げました。12月に横浜市で行われた「2007防災フェア in KANAGAWA」にも参加し、地域の防災力を高める大切さを訴えました。

以来、2008年度までに全国各地で38回の公演を行い、9,500人を超える親子に、地震・津波が起きたときの心得や、助けあうことの大切さ伝えてきました。

2007年度は6月に横浜人形の家で、人形劇「コン太の稲むらの火」が、名古屋の養護学校卒業生からなる劇団によって上演されました。「稲むらの火」は、子どもたちの心に響く防災教育として、国際的な広がりを見せています。



フレッシュの「コン太の稲むらの火」

NPO法人化した今も、脆弱な財政、事務局機能の弱体で、活動の危機的状況は設立当初と同じです。しかし何度も解散の危機を回避し、また今後もNPO活動の継続が使命であることは全員が一致。舞台を見た子どもたちのところに、「ひとのいのちの尊さ」と「地震・津波の恐さ」がしっかりと伝わっていることへの感動と、行政・大学・マスコミ・防災ボランティアなどの多くの方々の支援が大きな支えとなっています。

防災は、研究も地域防災計画も企業のBCMも大切ですが、まずひとりでも多くの住民に防災の大切さを伝え、住民の命を守ることが一番大切なことです。難しい理屈だけでは住民のこころを捉まえることはできません。防災人形劇で親子が感動し、その上で防災のエッセンスを教える手法の有効性が防災先進県静岡で実証されました。人形劇だけでなく、影絵、紙芝居、歌などのさまざまなジャンルで子どもたちのこころに響く防災教育を図っています。

— 背景

損保ジャパングループは、国内に537の営業拠点、265のサービスセンター、29か国93都市の海

外拠点をもち、さらに約4万9,000店の代理店が、地域に根ざした事業を展開しています(2009年4月1日現在)。

地域社会の一員として、代理店とともに地域の課題に積極的に関わり合い、住民、行政、市民社会組織(NPO)などと協働して解決を目指していくことは、地域社会に対する重要な責任です。企業としての社会貢献活動だけでなく、社員ひとりひとりがそれぞれの地域に自主的・主体的に関わるための活動をサポートするとともに、そのための環境整備も進めています。

一 目 標

損保ジャパングループが持つノウハウを、「稲むらの火」を通じた防災啓発活動で、国内外の地域社会に寄与することを目指します。

一 期 間

2003年6月～現在

一 活 動

- 2004年1月 NPO人形劇プロジェクト「稲むらの火」初演(静岡県地震防災センター)
- 05年1月 国連防災世界会議での公演(神戸)
- 7月 内閣府ホームページに活動紹介が掲載される。スマトラ沖津波の被災地アジア8カ国・9カ国言語に絵本などが翻訳される(アジア防災センターによる)
- 08年10月 デフ・パペットシアターひとみ(ろうあ者と健常者のプロの人形劇団)が「稲むらの火」を初演。3年間で全国約100校の聾学校の巡回公演スタート。

一 主 な 成 果

- 05年11月 企業メセナ協議会 メセナアワード2005にて損保ジャパンが「文化庁長官賞」を受賞。
- 06年3月 消防庁防災まちづくり大賞消防科学総合センター理事長賞を、NPO法「人形劇プロジェクト稲むら火」が受賞。

一 連 絡 先

株式会社損保ジャパン CSR・環境推進室
 郵便番号 160-8338 東京都 新宿区西新宿1-26-1
 TEL03-3349-9258 FAX03-3349-3304 Eメール Eco@sompo-japan.co.jp <http://www.sompo-japan.co.jp>

一 関 連 サ イ ト

国際惑星地球年日本委員会 Website of the IYPE Japan. <http://www.gsj.jp/iype/en/docs/psp-inamura.html>
 人形劇プロジェクト稲むらの火 <http://red.zero.jp/inamura/>
 ヤマサ醤油株式会社 <http://www.yamasa.com/history/sevens.html>